

# 太陽光発電で東北復興を目指す

登米市ソーラープロジェクトに寄せて

日本は海に囲まれた、国土に限りのある島国です。食料とエネルギーを確保する努力は宿命と言えます。まちや村に目を転ずれば、少子超高齢化、財政健全化、地域活性化の三つの課題を抱えており、故郷は日に日に疲弊していくように思えます。

私たちパスポートは、登米市でみなさんとともに、太陽光発電事業をすすめていきます。この日本の現実、ど真剣に取り組むモデルになりたいのです。

自然豊かな登米市は、国内有数の米どころ。米を育む太陽の光。登米市は、太陽光による発電にも適した地域なのです。太陽光発電は、未利用地を有効に活用します。20年間の発電により生まれる収益は、所得や地代、固定資産税となって、地域を元気にしていきます。そして、子や孫へ、土地を守り引き継ぐことを可能にします。

私たちが将来世代への責任として目指しているもの。それは、自立分散型エネルギーの地産地消を実現し、次世代の社会システムである「スマートコミュニティ」を構築し、地元企業や住民に安全・安心と快適・便益をもたらす新しいまちづくりを推進することです。エネルギーや環境問題に貢献することはもちろん、地方の三つの課題に少しでもお役に立つことです。そして、故郷を新しい次代に引き継ぐことです。

私たちパスポートは、このような取り組みをすでに、鹿児島県いちき串木野市で始めています。「日本一負荷の少ない工業団地」を目指して、地元の中企業と行政が資本を出し合い、合計約3MWの発電事業を開始しています。それを契機に、修学旅行や見学などの交流人口も増えてきています。エネルギーの地産地消による、人口3万人のまちのチャレンジです。

今回の登米市でのプロジェクトが、地方都市の活性化モデルとして全国に広まり、世界のサステナブル社会の実現が「日本の登米から始まった」と言われるようになる。私たちはそのお手伝いをしたいのです。

登米市のみなさん。故郷の新しいかたち、一緒に創っていきませんか。



株式会社パスポート 代表取締役社長 濱田総一郎

平成25年11月11日

登米市との覚書調印の様子（上、中）  
その後の登米記者会主催の記者会見（下）

